

【奈良県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
五條市、吉野郡下市町	五条吉野	「日本一の柿のまち」づくりに向けた取組	1	H28.06	1
橿原市、桜井市	十市・大福	基盤整備を契機として地域農業の担い手の育成と収益力の向上を実現	2	R4.03	8
生駒市	高山	流域治水の推進とため池監視体制の強化	3	R7.03	11

【工夫のポイント】

- **新品種の導入**により、晩生中心の**品種構成を改善**し、収穫期間の延長と労働分散による**経営規模拡大を実現**。
- **柿のハウス栽培**に先駆的に取り組むことで**高付加価値化を実現**。
- **市場関係者との交流会、現地見学会**などを開催し、**海外も含めた販路拡大**を促進。

基盤

労力軽減と品質・収量の安定化

造成農地は、**緩傾斜**で作業性に優れるうえ、晩生品種の導入により労働の分散が図られ、柿の栽培が急速に拡大。更に用水の安定供給により、品質が高く収量の安定した果樹生産が実現。



基盤整備
(S49年～H13年)

【整備前】

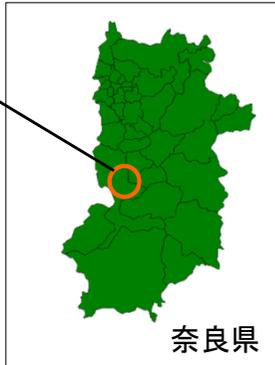
急傾斜な樹園地では、農作業に多大な労力を要するうえ、晩生品種に偏っていることから労働が一時期に集中。更に**用水の不足**にも悩まされており、柿の品質及び収量が不安定であった。



【取組地域の概要】

- **位置** ごじょうし よしのぐんしもいちちよう
奈良県五條市、吉野郡下市町
(特定農山村等)

ごじょうよしの
五条吉野地区



- **傾斜**
・平均28°程度

- **主要作物**
・柿

- **主な支援施策**
・国営総合農地開発事業(S49～H13)
・地域連携確立農業構造改善事業(H10)
・産地再生関連施設緊急整備事業(H24)
・強い農業づくり交付金(H18)
・多面的機能支払交付金(H23～)
・中山間地域等直接支払交付金(H12～)

生産現場

ハウス栽培による柿の高付加価値化



柿のハウス栽培

- 大玉高品質化を図り、色つやの良い甘い柿を生産。
- **柿のハウス栽培に先駆的に取り組む**ことで、高付加価値化に成功。

加工・流通

加工・流通体制の強化による経営発展



大規模選果場

- 小規模に分散していた選果場を統合することで、市場出荷体制を強化。
- あんぽ柿などの**加工、販売や海外への輸出**を促進。

担い手

地域の若年層が中心となった担い手づくり



栽培技術向上勉強会

- 青年部が主体となったイベントやPRIにより、知名度を向上させるほか、栽培技術向上のため各種勉強会を実施。

地域ブランドの確立による農業所得の増加

- 作業条件の改善と併せて**ハウス栽培や加工販売**などの新しい活動に取り組むことで、**地域全体で「奈良の柿」ブランドを維持**。



五條市における農業所得(果実)の推移



【出典：生産農業所得統計】

注)合併前の旧五條市、旧西吉野村のデータを合計して算出。

【対策のポイント】

- 排水改良により、水田を汎用化するとともに、担い手への農地集積を加速化。
- これにより、水稲・小麦の安定生産と高収益作物の導入等を実現。

【取組地域の概要】

かしはらし・さくらいし

- 位置：奈良県橿原市・桜井市



- 事業名
農業水利施設保全合理化事業 (H26～H29)
- 主要作物
水稲(主食用米)、小麦、ナス、いちご、キャベツ、花苗等
- 受益面積 31.0ha(水田)
- 主要工事
農業用排水路工：L=1,410m

基盤

水管理の省力化と併せて、排水対策を実施し、耕作条件を改善

- 狭小な土水路のため、豪雨時には周辺農地が冠水し、農業経営に支障(米作以外作付できない)



冠水した農地



水路の不良

基盤整備

(H26年～H29)

- 豪雨時においても確実に排水されることから、小麦・高収益作物の耕作条件が整備



冠水の解消



排水路整備

地域の取組

担い手の育成

- 花苗の新規就農者 育成。
- 集落営農の設立
- 農地中間管理機構を通じた担い手農家への農地の集積。



新規就農者による花苗

高収益作物の導入

- ナスやいちご、キャベツ等の導入・生産拡大。



いちご栽培

次世代につながる地域づくり

- 水田地域の豊かな自然を活かして、住民参加の地域づくりを実施。



生きもの調査(住民参画)

基盤整備により収益力を向上

- 基盤整備により担い手への農地集積を推進するとともに、付加価値の高い花苗に生産を重点化。
- 作物生産額に占める高収益作物の割合は約96%、生産額は約2,800万円(117%増)と大幅に増加。

対策の効果



【工夫のポイント】

- ため池及び附帯施設の老朽化解消による農業用水の安定確保。
- 一部の農業用水の治水利用転換により、下流地域の治水安全度が向上。
- 管理用カメラ等のため池遠隔監視システムを構築し、管理者の負担軽減及び安心・安全に寄与。

【取組地域の概要】

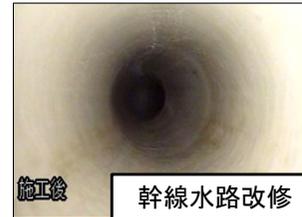
- 位置 いこまし
奈良県生駒市



- 主要作物
・水稲、大豆、いも類
- 主な支援施策
・農村地域防災減災事業(R1~R6)
うち3カ年加速化対策(R1)
うち5カ年加速化対策(R3~R5)

ため池のハード対策・ソフト対策

- 洪水吐きを改良し、切り欠き設置により治水容量45,000m³を確保。
- 取水施設や幹線水路の改修による農業用水の安定確保。
- 監視カメラや水位計等の遠隔監視システム構築により、管理負担を軽減するとともに監視体制を強化。



基盤整備
(R1年~R6年)

【整備前】

ため池の取水施設や幹線水路の老朽化が進行。ため池が決壊した場合、下流民家497戸に浸水被害が発生するおそれ。

大和川流域では常襲的な浸水被害に対応するため、大和川流域総合治水対策として、流域全体での治水容量確保が課題。



地域の防災意識の醸成

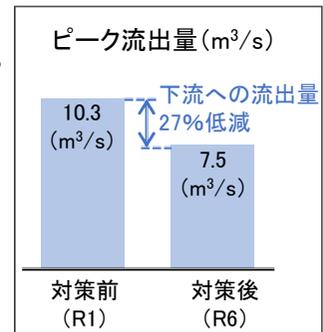
- ハザードマップや看板を用いた注意喚起により、住民の防災意識の向上に寄与。
- ため池管理者、市、河川管理者等の関係機関が連携して放流時の警戒体制を強化し、流域治水を推進。

施設管理の効率化と負担減

- 水位や雨量を含むため池の状況確認等の維持管理労力の軽減(年間64時間減)。
- ゲート操作の自動化等、ICTを活用した効率的な管理の実現。

下流地域の治水安全度の向上と営農の継続

- 洪水吐きに切り欠きを設置し、洪水時のピーク流出量を27%低減。
(流出量10.3m³/s → 7.5m³/s)
- ため池のシステム監視により、緊急時の初動対応が迅速化し、下流住民の安全度を向上。



- 農業用水を安定的に供給できるようになったことで、約240haの受益面積を持つ水稲、大豆等の地域営農の保全・継続が可能に。

